①風圧力

「**9. 荷重**」で最も出題の多いのは、「**風圧力**」である。 ⇒ここは確実に理解したい。

風力係数＝外圧係数－内圧係数

↓

風圧力＝速度圧×風力係数

↑

ガスト影響係数・・・都市部は大きい

↓

速度圧＝0.6×E^2×ガスト影響係数（突風の揺れ）

↑

E^2平均風速の高さ方向の分布係数・・・都市部は小さい

注）E^2とガスト影響係数は、屋根の高さに影響するが計算部分の高さは一定である。

(1) 風圧力の出題パターン

・風圧力の速度圧は、その地方における基準風速の2乗に比例する。

・風の速度圧は、0.6×屋根の高さと周辺状況で算出した数値×基準風速地盤面からの高さの2乗で求める。

・ガスト影響係数は、風で建築物が揺れた場合、発生する最大の力を算定するために用いる係数である。

・ガスト影響係数Gfは、「都市化が極めて著しい区域」より「極めて平坦で障害物がない区域」のほうが小さくなる。

・基準風速は、稀に発生する暴風時の地上10mにおける10分間平均風速に相当する値である。

・基準風速V0は、その地方の台風記録に基づき、30m/sから46m/sまでの範囲内において定められている。

・地表面粗度区分の決定は、都市計画区域の指定の有無、海岸線からの距離、建築物の高さ等を考慮する。

・平均風速の高さ方向の分布を表す係数Erは、地表面粗度区分（Ⅰ－Ⅳ）に応じて計算する。

・平均風速の高さ方向の分布係数は、「極めて平坦で障害物がない区域」より「都市化が極めて著しい区域」が小さい。

・単位面積当たりの風圧力は、「外装材に用いる風圧力」より 「構造骨組に用いる風圧力」のほうが小さい。

・風力係数は、風洞試験によって定める場合のほか、建築物の断面及び平面の形状に応じて定める数値による。